

## 町民の健康を守るのが

### 町政の仕事！

九月下旬、皆野産「野生きのこ」から放射能セシウムの基準値をこえる数値が検出され、皆野町で採取された「野生のきのこ」は埼玉県より出荷・販売の自粛の要請があったと新聞報道されました。

その後、横瀬町では“回覧板”で「野生きのこ」の放射性物質検査結果を知らせている。

「皆野町でもしらせてほしい」という声があり、直接町長に「調査結果を町民に知らせよう」要請しました。

翌日、副町長より『回覧板で知らせることにした』という報告をいただきました。

今回のように、要請を受けてから町民に知らせるのではなく、調査結果がわかった時点で、すぐに知らせるのが、町民の命と健康を守る町政の仕事ではないでしょうか。

常山 知子



## (八) オンダシ河原(続)

大野福次郎ら風布困民党先発隊は、一〇月三十一日午後三時頃風布上方耕地の金比羅神社を発ち、オンダシ河原に着いたのは「薄暮」の頃でした。ここまでの経路は幾つか考えられますが、井戸の人たちの目撃情報もないので(「持田鹿之助日記」、筆者は、金比羅神社―浅間峠―尾根通しに賽神峠―大鉢形―阿弥陀谷―鍵掛峠―鍵掛道―小滝―オンダシ河原だと思えます。この道は、金比羅神社―オンダシ河原の最短距離です(現在約二時間の行程)。

「小前会議」 大野福次郎が金比羅神社出発に当たって、「上日野沢村字小前と唱うる所に於いて隊長分の評議これ有る趣きに付これを聞かん」と言ったと聞いた人がいます(宮下沢五郎「尋問調書」。この人は「学務委員」をしていましたが、引用した「調書」部分には注目に値すると思えます。つまり、福次郎らは棕神社蜂起への「先発隊」であるとともに、小前での「隊長分の評議」に関与するという、もう一つの目的を持っていったという点です。

従来、福次郎らは「小前会議」に参加するため上日野沢に向ったと説明されてきましたが、まず、「小前会議」に至る経過を時系列に見てみましょう。

## 皆野町の秩父事件⑫

一〇月二日、下吉田井上伝蔵宅幹部会議で「武闘打開」を決定、伝蔵妻ハンを大井憲太郎の元に派遣。翌日から、弾薬調達や横瀬村・西ノ入村で資金調達作戦に入ります。

一〇月二三日、大井憲太郎の使者・氏家直国が伝蔵宅に来て自重を求めるが説得できませんでした。

一〇月二五日、石間村加藤織平・小前の門平惣平宅二ヶ所で幹部会議を開催。井上伝蔵・小柏常次郎は「平和説」を唱えたが、受け入れられず「暴発」を決定しました(小柏常次郎「尋問調書」)。

一〇月二六日、「粟野山会議」が開催され、田代栄助・井上伝蔵らの蜂起延期論を排し一月一日蜂起を決定。

翌日、上州・信州へオランダを派遣しました。

その後、両人が再度延期を申し出たのに対し、一日蜂起を再確認したのが「小前会議」と言われています。

ところが、小前会議の日にちについて、従来、一〇月三〇日説・三一日説・

その他の説がありました。それらは、田代栄助始め農民裁判文書に出てくる日にちの異同、それらの「読み方」の相違によるものですが、仮に一〇月三〇日説の場合だと、大野福次郎は「小前会議」に行くつもりだったが、その日にちを間違えたのだという解釈になります(浅見好夫『幻の革命』)。

一〇月三〇日午前中、小前の門平惣平宅で菊池貫平・井出為吉がはじめて田代栄助に面会します。両人が秩父蜂起への参加を約した後、栄助は蜂起の日にちが決定し次第知らせる旨伝えました(田代・加藤・井出「尋問調書」)。

つまり、「小前会議」はまだ行われていなかったか、少なくとも栄助自身はこの時「延期」を考えていたと推測されます。



(小前の八坂神社)

## 新米議員のひとりごと

常山 知子

先日、「皆野大豆の会」で育てた落花生の収穫をしました。

びっくりする程実がついていません。“なんだ、これは？”とがっかりの声が上がります。

“ちゃんと草を採ったり、肥料をやったり、世話をしないとダメだね”と反省の声も。しかし、根元をよく見ると穴が掘られ、殻がまわりに落ちていたのです。

それがみごとに一列、二列と続きます。“やられた”ネズミ、カラス、タヌキ、ハクビシン？。

町中の畑で動物被害なんて考えていませんでした。

最近、鳥獣被害の話をよく聞きます。金沢ではイノシシにしかけた罠に熊がかかった。三沢方面も今年はいつになく被害が多いと。夏の異常な暑さなど地球の温暖化が心配されていますが、動物の世界も何か変化が起って、いるのでしょうか？、人間も知恵を絞って大切な作物を守っていかねば、町の鳥獣被害対策費用は十分でしょうか？

